

かわらばん

妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

「街並ギャラリー」10月8日～10日開催予定

〓初回を振り返り
今年は大いに頑張ろう〓

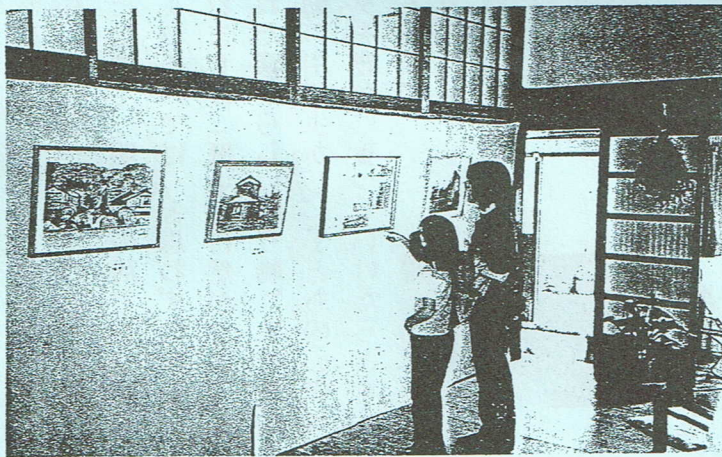
一昨年、天領まつりを中心に、三日間「街並ギャラリー」を開催しました。当初は、町民数人の方々の所蔵されている「お宝」を町屋に展示して、街並を見学しながら散策をするという計画であった。しかし、それでは展示物が揃わず統一感がない、また村上市で開催されているイベントの二番煎じではないかという意見もあり、一時は、立ち消えになるのではと思われました。

しかし、例年、東京芸大院長が

来町されている時の話題に、自分達の残していくスケッチ画の作品をもっと街並のPRに活用してみたいという提案や芸大院長の活動を中心となつて行なつてこられた故鈴木会長も常々「これらの作品を街並に展示することが出来たらなあ」と言つておられたこともあり、早速、教育委員会に相談したところ、搬出展示の快諾を頂き、第一段階をクリアすることが出来た。

次に展示する範囲と場所の選定

に入る。範囲は、広ければ良いではなく、通常の散策程度で三時間位の距離を考え、住吉町から尼瀬三区までの区間とする。また、展示会場は、妻入り形式の残っている町屋を対象に考え選定に入り、



十一軒の町屋の方々からお借りすることができてホッとすると同時に展示方法などについて検討す

る。当協議会でこのイベントを成功させるには、全員の力が必要となり、声をかけ多数の方よりのお手伝いで開催に間に合わせる。また会場となった町屋の方々も自分の飾りつけなどとして会場を盛り上げていただき、あとは会期中のお天気を祈るのみで当日を迎えることができた。

当日は、朝から良い天気、それに新聞紙上で写真入り記事の掲載もあり効果抜群、この「街並ギャラリー」はもう成功したと同じ気分になり、幸先良いスタートとなった。

期間中の二日間、天候にも恵まれ早朝よりガイドマップを片手に散策する姿が多数見られ、会場では、家の人と談笑されている光景もあり、大いに盛り上がりつつあった。展示した作品のレベルも高く、見学者も大変驚いていました。また三日目は、最悪の天候の雨、風も少し強かったが多数の見学者があり、少々驚かされた。スケッチ

画の鑑賞と並行して町屋の奥まで入り込んで家の構造や材料などをみて、なつかしさと温かみのある家々を大切にして欲しい、ぜひ残して下さいなどの感想に一同全員大変な驚きと感動を受けました。

一昨年のことを反省材料として今年は、十月八日から十日の三日間、開催を予定しております。前回の反省を踏まえ、すばらしい「街並ギャラリー」にしたいと考えております。ぜひ、町民の皆さん、この機会に散策鑑賞して下さい。

琴線にふれた

妻入りの街並と海

出雲崎小学校

教頭 本山 福美

未踏の地「出雲崎」との出会い、主人が尼瀬の方と一緒に勤務したとき以来です。しかも、地名が「尼瀬一区」でしたので強烈でした。尼瀬という地名にも心が惹かれたのはもちろんのこと、小さな街であるはずなのにどうして

一区二区となっているのかも不思議でした。(現在もこの単純な疑問は解けていませんが・・・)その後、雑誌で妻入りの街並の掲載に、思わず手を止めたのですが、その方への思いを馳せるだけで、妻入りの街並そのものに関心をもつまでは至らずにいました。

実際に、出雲崎に足を踏み入れたのは、赴任することが決まってからです。地図を片手に学校と海を見に来ました。少し風のあるどんよりとした雨の日。あちこちにある水害の爪痕。見知らぬ地への不安。気持ちが塞ぎ込みがちになりながら車を走らせていると、眼前にいきなり鉛色した荒れた日本海。それは、自然の偉大さを感じさせ、暗い気持ちを一蹴する力強さでした。さらに、坂を下りようとする、黒く光った整然とした妻入りの街並。ダブルパンチされたような感動が私を覆い、ただただ圧巻されるばかりで言葉を失っていました。この一瞬、ここに勤

務できることが喜びとなりました。人の心を打つこれらの景観は、子どもの感性を知らず知らずのうちに育て、やがて古里を離れた者も、この海と妻入りの街並が癒しとなって、明日への活力を与えてくれるのでは、と思わずにはいられません。「歴史と自然が与えてくれた素晴らしい贈り物」を教育活動の中で生かし、子どもの心のヒダを豊かに養っていかれたらと考えています。



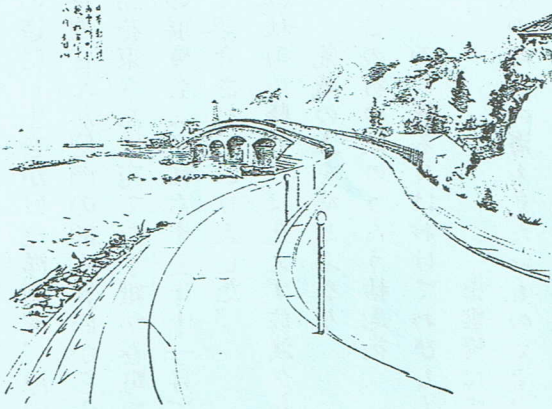
出雲崎町商工会

事務局長 高木 敬一

昨年四月より出雲崎町商工会にお世話になっております。私と出雲崎町との出会いは、今でも鮮明に残っており、小学校五年生の時に友達五人でバスに乗って訪ねたことが始まりで、今思えば「石井神社のお祭」の日でした。両親が

ら柏崎の「エンマ市」が終わると、この露天商の半分くらいは、出雲崎へ行くんだと聞いていたので訪ねてみました。当時は、「天領の里」やすぐ前の海岸バイパスもなく、道路も舗装されてなく、全くの田舎町という感じでした。もちろん「妻入りの街並」という認識はなく、「似たような建物が続いているなあ」位にしか思っていないでした。

しかし着任してロードワークをしながら良く拝見すると、いやに間口が狭く、奥行きが長い家が続いている。これが「妻入りの街並なんだな」と実感しました。さらに、よく見ると国道三五二号に面して、風林館さんを約一〇〇メートル位過ぎると右側に「妻入りの街並景観」と印した立看板があり、そこから探索してみると少し入って右側に歴史国道、獄門跡、荒谷橋、直角カブ、代官所跡、光照寺、芭蕉園、円明院、良寛堂と名所旧跡が左右に点在し歴史の重み



高山

を感じさせます。この「妻入りの街並」の景観を始め由緒ある史跡、夕日ライン等、実に素晴らしい景勝物を「宝」に活気ある町が再び訪れる日を期待すると共に微力ながら協力していきたいと思えます。この原稿を書き綴っている最中に、福島県保原町から七名の団体が商工会を訪れ、「妻入りの街並」を探索され、しきりに関心して町を後にした「旅人」がいたことを最後に記しておきます。

妻入りの街（二十五）

住吉町 磯野 猛

人物往来（十）

大正八年三月三十一日、出雲崎町立高等小学校へ三十七歳の教師が転任してきました。三島郡才津小学校（現長岡市）からでした。

本名が大島清作、巻町出身の人で努力家で優秀な先生だったそうです。奥さんと三人の子どもさんがおりましたが、奥さんが病弱で、家事や育児で苦労されながらも教師として立派な生活をされたことも知られております。この時期は、出雲崎では、佐藤耐雪さんが良寛堂建立に向けて県内は、もちろん東京、神奈川、北海道と多忙きわまる最中でした。そんな忙しい耐雪さんでしたが新任の教師、大島清作という人柄と良寛研究に意欲をもっている学究肌を高く評価して、出雲崎図書館の書記となるよう進言され、教員兼図書館書記という肩書きを与えられ、良寛研究のための図書などを提供されまし

た。以来、二人の間柄は、良寛堂建立と共に良寛研究の足場も固まったようです。

当時、中央からは著名な文人、画家が耐雪さんの呼びかけに応じて、出雲崎と良寛の遺跡めぐりで、その接待にも大変な時期で、町中の協力者との交流も生まれ活気づいておりました。耐雪さんは、若い大島教員を協力者として、その代表的な学者や文人、画家に良寛の事跡や詩歌の解説に当たるようにされました。このことが一層、若い教師、大島清作さんをまだまだ知られておらない良寛への研究心を向上させる結果となりました。若い教師は、仕事の合間には耐雪さんと良寛を語り、良寛の事跡について勉強されたようです。たまの休日には、この若い先生は、幼い子を背負い、上の二人の子の手を引いて浜辺で遊ばせたり寺の境内や神社の境内で読書と育児を両立させておられたそうです。大正八年から十五年までの間の出雲崎

在町期間、この先生の研究は、おいに進み、耐雪さんの信任も得て町の人たちの間にも高く評価されておる最中、大阪府立の茨木中学校へ転任が命ぜられ、多くの町の人たちに惜しまれつつも、この町を離れられたのです。この出雲崎時代の研究が実を結び、昭和四年「良寛全集」を東京の岩波書店より出版されました。大島花束という名前で菊版の六四八頁の大冊のもので世間をアツといわせました。田舎出身の無名の教師が、著名人以外のものは手がけない東京の老舗、岩波書店が版元だったからです。この先生は、終生出雲崎の耐雪さんや多くの人と交流をもっておられました。小学校の教師が土地の住人と交わり、教育だけでなく出雲崎の文化にも寄与されたことは、語り継がれてゆくことと思います。病弱な奥さんは、出雲崎で病没され、数年後、住吉町の田古島キクさんと結婚され、大阪へ行かれたのです。

夏目漱石に勧められて良寛研究の道に一生をかけた洋画家、津田青楓さんが尼瀬の熊本旅館から大島花束さんに宛てた手紙が巻町での展覧会（昭和六十三年十一月）で紹介されておりました。

◎秋雨の降る日は見えず佐渡ヶ島
荒磯の上を鷗とぶなり
◎この宿の娘のうたう枯尾花
雨の降る日はわけてわびしも

出雲崎にて
秋の越後の海も見たいものです、
また、そのうち行きます。炬燵（こたつ）にもぐり込んで海を見るのもいいでしょう。

大正十一年十月二十七日

津田青楓

この枯尾花を唄った娘さんは、やがて青楓さんのモデルになって八十号の大作となり、今も国立美術館に保存されております。このほか、郷倉千靱、中村岳陵、安田靉彦、小川芋銭といった東西一流の人々との交流もあり、とくに「良寛全集」の装丁には、小川芋銭の

良寛の長歌「月の兎」を図案化したものが表紙にデザイン化されました。大黒屋さんの「月の兎」にも使われております。（つづく）



津田青楓

《お知らせ》

〈全国良寛会の総会が 当地で開催されます〉

第二十二回全国良寛会総会が九月二十四日に開催され、当日は、全国より五〇〇名程度の参加者が見込まれます。また、協議会協賛事業として翌日二十五日に町内史跡めぐりが計画されております。

私たち妻入りの街並景観推進協議会が街並修景事業の一環として、

皆さんのご協力を得て、「木枠付プランター配付活動」を始めて六年になります。美しい草花に癒される街並になりましたが、最近、少し粗末な扱いが見られるようになり、残念に思っています。

標記のとおり、全国良寛会の総会が開催されます。おもてなしの一助に街を草花で・・・皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

第22回
全国良寛会出雲崎総会

古へに
変はらぬものは
荒磯と
向いひに見ゆる
佐渡の島なり

9.24 [土]
平成17年
出雲崎町民体育館 13:00~

主催＝全国良寛会出雲崎総会実行委員会
お問い合わせ＝全国良寛会出雲崎総会事務局
（事務局開設8/1より）tel.0258-78-2075
開催地＝出雲崎町

「プランター用木枠どうぞ」

日ごろは、街並の景観植栽にご協力いただき感謝申し上げます。

標記の木枠は、13リットル入れ長方形のプランター用木枠です。

「木枠」ですが、ご希望の方は、下記の要領のとおりお申込み下さい。なお、個数は十五個と僅かな数ですので、早めの申込みをお待ちしております。

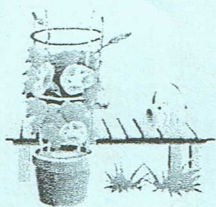
●申込み要領

・ 申込場所 中央公民館

(TEL 781-2250)

・ 配付時期 お盆前

・ 申込みの早い方から順に無料で差し上げます。



「歴史の道ウォークの開催日程

の変更について」

例年、町教育委員会との共催で

歴史の道ウォークを八月に行なっ

ていますが、今年は、「天領まつり」

の前日の十月八日に開催日を変更させていただきます。

なお、当日から併せて「街並ギヤラリー」も三日間、開催予定です。視察会場は、まだ未定ですが、ご参加をよろしく願います。

ちよつと一息

出雲崎の俗称・地名

以前「街並み歴史散歩」の名前で掲載していた小路等のいわれのお話の続きです。

○公卿小路（くげこうじ）

岩船町のたまき屋さんから浜へ下りる道路は、以前は、狭い小路だった。

元和元年（一六一五）の冬のこ

と、京の小倉大納言父子三人が佐渡へ流罪の時、この小路を通って佐渡からの迎え船に乘せられて行った。公卿が通ったのでこの名がついた。三人は、船出の仕度ができるまで、砂の上に荒むしるを敷

いた上に座らせられたという。

○橘屋小路（たちばなやこうじ）

良寛堂に向かつて左手の小路を橘屋小路と呼んだ。

出雲崎の町名主橘屋は、間口一三間の大屋敷で町名主とはいえ、大名格の暮らしであった。このあたりのほとんどの家が五間とか六間の長屋暮らしで貧しく、この人たちにとって橘屋は、雲の上の人だった。屋敷内を垣間見ることなどできず、屋敷内の人たちが、どんな生活をしているかさえ分からなかったが、高い塀に遮られた小路だけは、我が物顔で通ることができた。

○ふたご山の山頂

ふたご山は、住吉町の芭蕉園の裏の切り立った崖山の名で、登りきった山頂は、昔から天下一の眺めといわれていた。町を訪れた文人墨客はもとより、金持ちといわれた人たちは、客があると、この

山頂の平地にゴザを敷き、眼下の妻入りの街並などを眺めながら、酒を酌み交わしたり、詩歌を作ったり、時には琴、三味、太鼓で風流を楽しんだという。見渡すと米山、妙高の山々、小木の城の彼方に、魚沼三山、遠くは朝日連峰も望まれる。観音様で有名な椎谷も西に見られ、娯楽、慰安のなかった頃は、金持ち、裕福な人たちは、好んでこの山頂で心を癒したという。

協議会総会開催

出雲崎妻入りの街並景観推進協議会の総会を六月に開催し、前年度事業報告及び決算報告、今年度事業計画及び予算、役員について承認及び決定をいただきました。

前年度は、豪雨災害、中越地震という相次ぐ災害により、計画した事業がほとんど未消化に終わりました。今年度は、予定どおり事業を実施したいものです。今年度の事業計画は、次のとおりです。

推進協議会今年度の顔ぶれ

No	住所	氏名	備考
1	尼瀬	広瀬 真弘	地区推薦
2	尼瀬	佐藤 幸一郎	地区推薦
3	尼瀬	女柳 勝治	地区推薦
4	尼瀬	宮下 登一	地区推薦
5	尼瀬	小田島 正好	地区推薦
6	尼瀬	相沢 貞夫	地区推薦
7	住吉町	関本 啓三郎	地区推薦
8	石井町	安達 祐三	地区推薦
9	羽黒町	旭 忠麿	地区推薦
10	鳴滝町	小林 等	監事
11	鳴滝町	種田 昭男	地区推薦
12	木折町	石井 弘	地区推薦
13	井鼻	松永 信義	地区推薦
14	住吉町	磯野 猛	監事
15	羽黒町	曾根 良子	
16	別々谷	大谷 茂	
17	久田	小黒 博泰	
18	石井町	磯木 ヨシエ	会計
19	尼瀬	加藤 高康	
20	羽黒町	遠藤 良法	
21	井鼻	細木 勝子	
22	木折町	長谷川 隆	会長 副会長
23	井鼻	渡辺 常侃	
24	住吉町	村越 隆夫	
25	石井町	関根 一祥	
26	羽黒町	佐々木 貞治	副会長
27	石井町	納谷 稔	
28	井鼻	小林 八重子	
29	羽黒町	高坂 一弘	
30	尼瀬	小田野 一男	
31	乙茂	松永 透	

●Aグループ

○空家・空地情報連絡調査

近年、空地が増え、街並が櫛の歯が抜けた状態になりつつあります。現在の状況を把握する予定です。

○先進地視察

街並がきれいに整備されているところ、地域おこしを頑張っているところを視察に行きます。

●Bグループ

○おもしろ看板の設置

出雲崎の昔話を地元の皆さんや

散策に訪れた皆さんから楽しんでもらえるように三枚程度作成します。出来上がった看板の設置場所を提供していただける方をお待ちしております。

●かわらばんグループ（Cグループ）
○かわらばんの発行
かわらばん「妻入り」を四・八・一月の年三回発行いたします。

○歴史の道ウォーク

教育委員会との共催で今年も歴史の道ウォークを行います。例年八月下旬の開催でしたが、今回は、

十月に行なう予定です。
○その他
プランターの木枠の色があせてきた、壊れたという方で新しい木枠が欲しいという方は、在庫が十五個ありますので、事務局までご連絡下さい。（TEL7812250）
その他、協議会全体では、九月二十四・二十五日に開催される全国良寛会総会に協力予定です。また、冒頭で述べたとおり十月八・九・十日の三日間「街並ギャラリ」を開催する予定です。

あとがき

「暑中お見舞い申し上げます。」
暑いのは、人間だけでなく、草花も暑いのです。朝夕の水くれを忘れてはいませんか？

鳳仙花は、水が足りなくなるとすぐにしおれたようになり、水をやってしばらくすると、もどろりになります。真夏は、炎天下に置かないで日陰が良いのではないのでしょうか。

暑い日の夜は、なかなか寝苦しいですね。クーラーを一晩中、使っている喉を痛めてしまい、ときには、風邪をひいてしまうこともあります。そこで、氷枕を使用すると気持ち良く眠ることが出来ます。氷枕といってもジェル製の製品で冷凍庫で冷しても硬くならないものをタオルに包んで使えます。一度試してみても、いかがですか。

まだまだ暑い日が続きますが、頑張って乗り越えましょう。

石井町 納谷 稔